

九州運輸局メールマガジンをご愛読くださりありがとうございます。

九州運輸局メールマガジンは隔週の木曜日にお届けしています。

次回発行日は平成28年4月7日（木）です。

◆ 目次

1 現場レポート

- ・クルーズを通じた日本とASEANとの間の交流拡大を目指して～「日ASEANクルーズ振興シンポジウム」を福岡市で開催～
- ・福岡県糸島市の離島「姫島」に、17年ぶりに新船が就航～減揺装置やバリアフリー席で快適性もアップ～

2 地域公共交通に関する情報

- ・筑紫地区4市1町によるバス利用促進の取組のご紹介

3 お知らせ

- ・「九州の物流 2016年版データブック」が完成しました！～九州をとりまく国際・国内物流の現状をとりまとめました～
- ・4月からクルマのナンバープレートカバーは禁止です！～回転・被覆・折り返し等も禁止～

4 九州運輸局ホームページアップ情報

- ・報道発表
- ・お知らせ
- ・更新情報

1 現場レポート

- ◆クルーズを通じた日本とASEANとの間の交流拡大を目指して～「日ASEANクルーズ振興シンポジウム」を福岡市で開催～

国土交通省では3月23日に福岡市にて、九州クルーズ振興協議会・（一社）日本外交客船協会・（一社）日本旅行業協会の後援のもと、「日ASEANクルーズ振興シンポジウム」を開催しました。

このシンポジウムでは、日本とASEAN地域におけるクルーズ市場の動向や両地域をつなぐクルーズのモデルルートの紹介を通じて、広く一般の方にクルーズの魅力を発信することにより、クルーズを通じた両地域間の交流拡大を目指し開催したもので、約180人の参加者が会場を埋めました。

国土交通省海事局 磯野・外航課長の「クルーズを通じた日本とASEANとの間の交流拡大を目指して、モデルルートを紹介するとともに、両地域間のクルーズの魅力やクルーズ商品としての可能性についてご議論いただきたい。」との開会挨拶で幕を開けたシンポジウムは、九州クルーズ振興協議会 中津・副会長からの「ASEAN及びアジア・日本におけるクルーズ人口の更なる増加と、クルーズ産業の発展を祈念する。」との来賓挨拶へと続き、ASEAN事務局のシタ・ランタ・デワヤニ テクニカルオフィサーの挨拶後、4氏による基調講演と移りました。

池田良穂・大阪府立大学 21 世紀科学研究機構 特認教授からは、「日本のクルーズ市場の動向と今後の展望」と題し日本のクルーズマーケットの将来性について、デビット・ゴードン・クルーズライン国際協会 (CLIA) アジア事務局長からは、「ASEANのクルーズ市場の動向と今後の展望」について、ハーモニー・ラム 国連世界観光機関 (UNWTO) アジア太平洋センター事業・広報部課長からは、「世界の観光動向と持続可能なクルーズ観光開発」について、奥川雄士・国土交通省海事局外航課外航海運事業調整官からは、「日本とASEANをつなぐクルーズのモデルルート」と題し、それぞれ講演がなされました。

引き続き「クルーズを通じた日本とASEANとの間の交流拡大に向けて」をテーマとしたパネルディスカッションでは、池田・大阪府立大学特認教授をコーディネーターに、パネリストには上田寿美子氏 (クルーズ評論家・クルーズライター)、木島榮子氏 (株式会社クルーズバケーション代表取締役社長)、南里隆幸氏 (福岡市港湾局港湾振興部長)、山口直彦氏 (商船三井客船株式会社常務取締役)、山崎紀彦氏 (郵船トラベル株式会社執行役員クルーズ部部长) の5名を迎え、熱心な討論が行われ、最後に池田特認教授が「ASEANと日本の双方向のクルーズ交流拡大を図ることが重要である。日本の内航フェリーを使ったルートを含め、今回発表のモデルルートの商品化に向けた関係者の努力が必要であり、ASEANにおけるクルーズコンサルタントの育成に向けた協力も必要である。」とまとめました。

最後に、久保田・九州運輸局次長の「日本とASEANとの交流拡大に向けては、本日のシンポジウムを参考に、ASEAN諸国を視野に入れたクルーズ商品の造成やクルーズ船の誘致にご努力いただきたい。」との閉会挨拶で幕を閉じた今回のシンポジウムは、多くの方に日本とASEANとの交流拡大の重要性を発信できたと確信しています。

国土交通省、九州運輸局では、今後も様々なシンポジウム等を通じて、クルーズ振興に努めていきます。

シンポジウムの模様は次のURLからご覧ください。

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_328_1.pdf

(海事振興部)

◆福岡県糸島市の離島「姫島」に、17年ぶりに新船が就航
～減揺装置やバリアフリー席で快適性もアップ～

福岡県糸島市の西部に浮かぶ周囲約3.8kmの離島「姫島」には、約180人余りの島民の方々が生活しており、糸島市岐志漁港とは1日4便、片道16分の市営渡船で結ばれています。

平成10年に建造された旧船「ひめしま」は、島民だけでなく、釣り人や観光客等、島を訪れる人たちの大切な足でしたが、この度老朽化に伴い引退することとなり、3月2日に新船「ひめしま」が就航いたしました。

総トン数35トン、旅客定員76人の新船「ひめしま」は、船首部分が球状となっており推進性が増すとともに、バリアフリー席やソファベット、減揺装置を備えており快適性もアップしています。

姫島の児童たちの笑顔に包まれた岐志漁港での就航記念式典では、月形市長や来賓

によるくす玉割なども行われ、新船「ひめしま」の新たな門出を祝いました。

九州管内には、全国離島航路289航路の約3分の1を占める87航路があります。このうち48航路は国庫補助航路に認定されており、九州運輸局ではその適切な整備に取り組んでいます。

新船「ひめしま」の就航記念式典の様子は、次のURLからご覧になれます。
http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_328_2.pdf
(海事振興部旅客課)

2 地域公共交通に関する情報

◆筑紫地区4市1町によるバス利用促進の取り組みのご紹介

バスの利用促進を図るため、筑紫地区4市1町（筑紫野市・春日市・大野城市・太宰府市・那珂川町）が、共同で広報誌を作成しました。

コミュニティバスや路線バスを乗り継いで、目的地への到着を目指す旅の誌上企画であり、普段は通勤・通学の足としての利用が多いバスについて、レジャーを目的とした利用の提案を行うものです。

自治体の連携によるバス利用促進の広報誌作成は、福岡県内で初の取組で、福岡県（企画・地域振興部交通政策課）も編集会議に参加し、意見調整等を行いました。

○広報誌『バスに乗ろう！～筑紫地区「ぐるり」旅～』の内容

・筑紫野市のJR二日市駅を路線バスで出発し、太宰府市～大野城市～春日市～那珂川町のコミュニティバスを乗り継いで、西鉄那珂川営業所に到着する土曜日のダイヤを紹介

・路線沿いの各市町お勧め歴史・文化等スポットを紹介

○配布方法

・Webで配布（福岡県及び各市町のホームページ）

・各市町の市（町）報に、広報誌のダイジェスト版を掲載

※各市町の3月1日号に掲載（大野城市は2月15日号に掲載）

○福岡県ホームページの掲載箇所

（1）プレスリリース

<http://www.pref.fukuoka.lg.jp/press-release/gururitabi.html>

（2）常設するページ

<http://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/gururitabijyousei.html>

（3）その他

各市町のホームページにも掲載

ルート図や土曜日のダイヤは次のURLからご覧ください。

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_328_3.pdf
(交通政策部 交通企画課)

3 お知らせ

◆「九州の物流 2016年版データブック」が完成しました！

～九州をとりまく国際・国内物流の現状をとりまとめました～

九州運輸局では、国民の暮らしと経済活動を支える物流に関するデータを収集し、分野別に実績等を整理し、関係者の業務に活用いただくことを目的として、毎年、

「九州の物流 データブック」を作成しておりますが、この度、2016年版が完成しましたので、お知らせいたします。

当該データブックにつきましては、有識者、行政、物流事業者など多くの方々から好評いただいておりますので、ぜひご活用ください。

「九州の物流 2016年版データブック」は、こちらのURLからご覧になれます。

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/gyoumu/koutuu/file03/2016buturyu-top.pdf>

【九州の物流2016年版データブック概要】

I 九州・山口の現況・・・主要経済指標・運輸関連指標のほか、九州各地域の主要産業を地図で紹介。

II 貨物流動・・・九州・山口の外航海運や航空貨物輸送量の推移など、陸上・海上・航空の貨物輸送を紹介。

III 九州の物流事業・・・九州・山口の陸上・海上の物流事業の実績や物流事業者数の推移、収支状況などを紹介。

IV 九州の物流施設・・・九州の主要物流施設の地図や概要のほか、外貿コンテナターミナルの状況と輸出入の推移を表やグラフで紹介。

(交通政策部 環境・物流課)

◆4月からクルマのナンバープレートカバーは禁止です！

～回転・被覆・折り返し等も禁止～

ナンバープレート（自動車登録番号標、車両番号標等）をカバー等で被覆することの禁止のほか、一定の位置・方法において表示しなければならないことを内容とする改正道路運送車両法の規定が、平成28年4月1日から施行されます。

現行の道路運送車両法においても、ナンバープレートは見やすいように表示しなければならないこととされていますが、平成28年4月1日以降、ナンバープレートについて、カバー等で被覆すること、シール等を貼り付けること、回転させて表示すること（※）、折り返すこと等が明確に禁止されることとなります。

※ナンバープレートを（反）時計回りに回転させることをいいます。

詳しくは次のURLからご覧ください。

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/osirase_328.pdf

(自動車技術安全部 管理課)

4 九州運輸局ホームページアップ情報

--- 報道発表

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/#HOUDOU>

--- お知らせ

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/#OSIRASE>

--- 更新情報

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/#KOUSIN>

//////// 編集部より //

いつも九州運輸局メールマガジンをご覧いただき誠にありがとうございます。
編集部では、運輸と観光に関する取組や話題、イベントの案内、地域の情報等、本
メールマガジンへの掲載記事を広く募集しています。お気軽にご投稿ください。

////////////////////////////////////

■本メールマガジンのバックナンバー閲覧はこちらから

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/backnumber-top.htm

■本メールマガジンの配信中止やメールアドレスの変更などはこちらから

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/kouhou_mail.html

■九州運輸局メールマガジン編集部（九州運輸局総務部内）

mail: qst-mm-kyushu@ml.mlit.go.jp

Tel : 092-472-2312 Fax : 092-471-7192
